

日本初記録！ 全長 1.7m の巨大ウミヘビ採集！！ 和名「ヨウリンウミヘビ」を提唱

一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究センター(沖縄県本部町)と琉球大学 熱帯生物圏研究センター(沖縄県西原町)の共同研究グループは、沖縄県国頭村近海で採集された全長 1.7mの巨大なウミヘビが、日本初記録となる *Hydrophis stokesii* であることを明らかにし、葉形状の腹板(お腹の鱗)にちなみ、和名「ヨウリンウミヘビ」を提唱しました。本研究の内容は、学術雑誌「Current Herpetology」に掲載されました。

■発表雑誌■

雑誌名: Current Herpetology

論文名: Addition of the Sea Snake, *Hydrophis stokesii* (Squamata: Elapidae) to the Herpetofauna of Japan

著者名: 笹井隆秀¹、山本拓海²、岡慎一郎¹、戸田守³

(¹一般財団法人 沖縄美ら島財団)、(²琉球大学大学院 理工学研究科)、

(³琉球大学 熱帯生物圏研究センター)

掲載日: 2021年8月30日

■ポイント■

- 2021年3月30日、国頭村奥間にて全長 1.7m、胴回り 25cm、最大体幅 10 cm、体重 3.6kg の巨大なウミヘビが捕獲された。
- 調査の結果、日本では発見記録のない *Hydrophis stokesii* という種類であることが判明した。
- 本種の特徴である葉形状の腹板(お腹の鱗)にちなみ、和名「ヨウリンウミヘビ」を提唱した。
- この発見により、従来オーストラリアから台湾とされていた本種の分布が 47 年ぶりに北東方向に約 900km 拡大された。
- 本種は例外的に毒牙が長く、ウエットスーツを貫通するという報告もあることから、マリンレジャーが盛んな沖縄県においては、安全上本種の存在を認識しておくことは重要であることを指摘した。
- 令和3年度内に、沖縄美ら海水族館にて本種の標本展示を予定している。



ヨウリンウミヘビ

■代表研究者■

笹井 隆秀(ささい たかひで): 一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センター 動物研究室
沖縄美ら海水族館 海獣課 ウミガメ係
専門は爬虫類学。海棲爬虫類の生態学的・行動学的研究。

<お問い合わせ> 一般財団法人 沖縄美ら島財団 企画広報課 仲宗根・宮内

TEL 0980-48-3649 / FAX 0980-48-3122

E-Mail: oki-pr@okichura.jp

<研究の背景>

爬虫類に分類されるウミヘビは、インド洋および西太平洋の熱帯域を中心に広く分布しているコブラの仲間です。世界では 60 種以上が確認されており、琉球列島が分布の北限とされています。

沖縄県内には「イラブー」と呼ばれる「エラブウミヘビ」など、合計 3 属 8 種の生息が確認されており、各種において繁殖方法や餌の種類、捕食方法などに顕著な違いが見られます。

なお、爬虫類の研究が比較的進んでいる日本において新たな種が確認されることは、隠蔽種(1 種とされていた種の中に、外見上は区別が付きにくい別の種が含まれているもの)の発見や人為的な外来種の持ち込みを除けば極めて稀なことです。



ヨウリンウミヘビと笹井

<研究の概要>

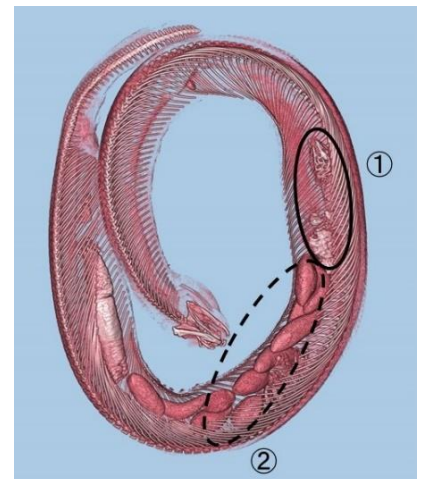
2021 年 3 月 30 日、国頭村奥間にて種類が判別できないウミヘビの仲間が採集されました。外部形態の確認とミトコンドリア遺伝子の解析を行ったところ、これまでに日本から発見記録がない *Hydrophis stokesii* であることが明らかとなりました。捕獲された個体は、全長 1748mm(鼻先から総排泄孔までの長さ 1545mm+尾の長さ 203mm)、体重 3660g であり、沖縄県で確認されている他種と比較するとかなり大型です。発達した卵胞を保持していたことから、メスの成体であることがわかりました。

日本初記録である本種には和名がなかったため、葉形状の腹板(お腹の鱗)を持つことにちなみ、**和名「ヨウリンウミヘビ(葉鱗海蛇)」を提唱しました。**

Hydrophis stokesii は、1846 年オーストラリアで新種として発見された種であり、ペルシャ湾から南シナ海、東南アジア、オーストラリア東部までインド-太平洋地域の温かい海に広く分布するとされてきました。これまで分布の北限は、1974 年に台湾南西部で採集されたものでしたが、今回の発見により、本種が沖縄県内にも分布する可能性が初めて示されると共に、**分布の北限記録が 47 年ぶりに、北東方向に約 900km 更新されました。**

さらに、本個体の胃の中からは、ハリセンボンの仲間が丸飲みされた状態で発見されました。ウミヘビの食性については多くの研究例がありますが、**ハリセンボンの仲間を捕食していたという記録はなく、今回の事例が世界初となりました。**

本種は、人に対しても致死的な毒を持っていること、大型になると毒牙の長さが 3.5mm を超え、薄手のウエットスーツを貫通するという報告があることを踏まえ、マリンレジャーが盛んな沖縄県においては、**本種の存在が広く認知されるべきだとの指摘も行いました。**



CT 画像内の卵胞の様子

- ① ハリセンボンの仲間
- ② 卵胞

<今後の展望>

今回見つかった個体のみで、沖縄島近海に本種の安定した個体群が存在すると断定することはできません。しかし、顕著な痩せが見られないことから長期間漂流していた個体である可能性は低く、水温の低い春先のタイミングで餌を食べていたこと、発達した卵胞を保持していたことから、少なくとも沖縄島近海は、彼らが生息できる環境条件を満たしていると考えられます。今後も研究を続け、さらなる個体の収集に努め、沖縄島近海に安定した個体群が存在する証拠獲得を目指していきます。

また、令和 3 年度内に、沖縄美ら海水族館にて本種の標本展示を予定しております。